

令和5年度  
興南中学校  
入学試験問題

推 薦

国 語

令和4年12月3日（土）実施 45分／100点満点

受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙は開かないようにして下さい。  
解答用紙は別になっています。
2. 問題は【一】～【三】まで3題あります。
3. 試験時間は45分です。
4. 解答は解答用紙の所定のところに記入して下さい。
5. 解答は楷書で丁寧に記入して下さい。
6. 解答用紙には、受験番号、小学校名、氏名を必ず記入して下さい。
7. 試験終了後、問題用紙は持ち帰って下さい。





【一】 次の各問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入せよ。なお、指示された表記方法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

問一 次の漢字の読みを書け。

- 1 著す
- 2 連なる
- 3 用いる
- 4 快い

問二 1～4の四字熟語の( )に入る漢字を補足説明を参考にして答えよ。解答は上の漢字から順序よく記入すること。

- 1 言語( ) ( ) : 「言うにたえない」の意味。 2 ( ) 同( ) 異 : 反対の意の漢字で構成される。
- 3 温( ) 知( ) : 「昔の事から新しい知見を得る」の意味。 4 ( ) ( ) 八苦 : 漢数字と似た意の漢字で構成される。

問三 次の1～4のことわざの意味が正しいものには○、間違っているものには×と答えよ

- 1 あぶはちとらず (意味) 二つのものを両手に入れようとしてどちらも手に入れることができない。
- 2 石の上にも三年 (意味) つらくてもがんばり続ければいつかはむくわれる。
- 3 なさけは人のためならず (意味) その人のためにやっているつもりでも、甘やかすためにならない。
- 4 馬の耳に念仏 (意味) どんなにおろかな人であっても、仏を信じれば救われる。

問四 次の1～4の慣用句の意味として最も適当なものを次のア～エから選び、それぞれ記号で答えよ。

- 1 骨が折れる
  - 2 鼻にかける
  - 3 舌をまく
  - 4 顔が広い
- ア すごくとおどろく    イ じまんする    ウ 困難である    エ ばかにする    オ 知り合いが多い

問五 次の1～3の傍線部と使い方が同じものを次のア～エから選び、それぞれ記号で答えよ。











ア 恐竜たちは、耳のつくりがワニ類ととても似たものであったということ。

イ 恐竜たちは、よく聞こえる耳を持っていて聴覚が発達していたということ。

ウ 恐竜たちは、動物園のは虫類とは違い、大きな鳴き声を出せたということ。

エ 恐竜たちは、すべて沈黙を保っていて鳴き声を立てなかったということ。

問四 傍線部②「ベルニサル・イグアノドンはなぜ大量死したのでしょうか」の理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 群れをつくって生活していたために、みんな一緒にがけから落ちてしまったから。

イ 視力が弱いため、行く手にぼっかりあいた穴に気づかず崖から落ちてしまったから。

ウ 子どもと親が別々に行動していたため、子どもがたくさん崖から落ちてしまったから。

エ 豪雨のあとの洪水で流され、せまく深い峡谷を滑り落ちてしまったから。

問五 傍線部③「大きな足跡が外側につづき、小さな足跡が内側にあつて」とあるが、このことから筆者が推測したこととして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 大人の恐竜のあとに子どもの恐竜がならんで歩いていったということ。

イ 大人の恐竜も子どもの恐竜も一緒に群れをなしていたということ。

ウ 大人の恐竜と子どもの恐竜は足の大きさがかなりちがうということ。

エ 大人の恐竜が子どもの恐竜を真ん中にして、守っていたということ。

問六 ≪ B ≫に入る語句を本文中から五字で特定し、そのまま抜き出して答えよ。

問七 この文章での論の進め方について正しいものに○、正しくないものに×を書け。

- 1 自分で現地に行き、自分の目で実際に見たものや確実に証拠がある事実だけを書いている。
- 2 恐竜の化石の状態やそれが発見された場所から考えられることを結論として書いている。
- 3 恐竜と他の生物を比較し、似ている点から恐竜もそうだっただろうと推測して書いている。
- 4 恐竜たちの生活の様子を見ることはできないので、すべて想像力だけに頼って書いている。

問八 二重傍線部 a～d のカタカナを漢字にあらためよ。

- |   |              |   |                |   |             |
|---|--------------|---|----------------|---|-------------|
| a | 自分のリョウイキ     | b | 聴覚はかなりよくハツタツして | c | プロトケラトプスのハラ |
| d | かなりコウトウな社会生活 |   |                |   |             |

【二】中学生のミサとマユミは電車通学をしている。帰りの電車で席にすわるために、掃除当番でない方が席取りをすることにしていた。以下はそれに続く場面である。次の文章を読み後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧<sup>に</sup>に記入せよ。なお、指示された表記法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

「何をやってんねん、あんたは」

目の前に立ったおじいさんいきなりな<sup>\*1</sup>じられた。

あんたは、というのが自分のことと気づかず、しばらくいつものように改札をうかがったりしていた。

「あんたや、あんた。座席にかばんすわらせとるあんたや」

そこま<sup>で</sup>言われてようやく自分のことだと気づいて振り向いた。

頭のはげ上がった小柄<sup>こがら</sup>なおじいさんが、怖い顔<sup>こわ</sup>で自分を見下ろしていた。

え、何。このおじいさん、あたしに言うてんの。何言うてんの。

その年頃<sup>としころ</sup>に特有の反射的な反感は、揺るぎなく自分を見据<sup>す</sup>える怒<sup>いか</sup>りの眼差<sup>まなざ</sup>しにあえなくペしやんと潰<sup>な</sup>えた。

「混んできとんのに何でそのかばんを一人前に座らせとんねん」

1

「そんなことが理由になるか！その友達より先に乗ってはる人がぎようさんおんのに、後から来るあんたの友達があんたが先取りしといた席にしれつと座るんかい！おかしいやろが！」

そんな大きな声で怒鳴<sup>ど</sup>らんといてや、周りに見られて恥<sup>は</sup>ずかしいやんか！恥<sup>は</sup>ずかしいーそう思って周囲を見回してぎくりと身が縮んだ。

うるさい老人に向けられていると思った非難の眼差しは、全て自分に突き刺さっていた。あんなに怒鳴られてかわいそうに―そんなふうに思っている目はひとつもなかった。俯うつむいて肩を落としている自分が同情されるだろうと思っていたのに。あんな子供を大人げなく怒鳴りつけるなんてかわいそうにと老人のほう白い目で見られると思っていたのに。

白い目は容赦なく子供であるミサのほうに向けられていた。

それは周囲の人々が老人と同じ苛立ちいらだをミサに抱いだいているからだ、と気づかないほどには子供ではなかった。

恥ずかしい。注目を集めてしまったからではなく注目を集めた理由が恥ずかしい。この車両に同じ学校の生徒は乗っているだろうか、クラスメイトは乗っているだろうか。

2

「やったらあんたが席替かわつたらええやろが！言い訳すな！」

こんなことで言い訳をするほうが恥ずかしいなんてことはもう分かり切っていたのに、言い訳せずにはいられたなかった。案あんの定じよう喝破かつぱされて終わる。<sup>\*3</sup>

誰だれもとりなしてくれないことがミサに自分の立場を思い知らせた。

今までの自分達の『名案』<sup>②</sup>は、他人からは苦々しく思われる小賢こざかしさだったのだ。

「お待ちせ！席取っといってくれてありがと！」

異様な空気を読めないままにマユミが電車に乗ってきた。老人がマユミのほうをじろりと振り向く。

「あんたが友達かね」

「えっ、何…」

マユミは戸惑とまじいながらミサのほうに近づいてきた。

「ミサ、このジジイに何かされたん？」

小声で聞いたつもりだったのだろうが、マユミは地声が大きかった。

「何かしとつたのはおまえらやるが、しよつちゅうしよつちゅう！」

老人が「A」のような声を落とした。

「混んでる電車でみんな座りたいのに、かばん座らせてまで連れの分席取って、どんな教育されとんじや！」  
えくちよつとお。何よこのジジイ。マユミが唇を尖らせて言い返しかけたとき、

「どこの学校のカギどもやお前らは！言うてみい！」

―学校に言いつけられる！

ミサはとつさに席を立った。

「降りよ」

マユミにかばんを押しつけて、老人に頭を下げる。

「すみませんでした、これから気をつけますっ」

「B」のような口調で、だが一応は謝った。この辺でマユミも自分たちに向けられている白い目に気づいたらしい。不満そうな顔のままミサと一緒に頭を下げる。

逃げるように電車を降りて、ホームのベンチに座る。程なく発車のベルとともにドアが閉まり、電車が走り始める。ミサが取ってあった席は、電車が走り出しても誰も座っていなかった。

「…絶対ホームから見えへんようになったらあのジジイが座るんやで」  
ふて腐れたようにマユミがコンクリの床を蹴った。

「自分が座りたかったから難癖\*4なんくせつけてただけやで、絶対」

そうじゃないのは二人とも多分わかっていた。

一方的にミサたちを怒鳴りつけていた老人。ミサたちに向けられていた白い目。

何かしとつたのはお前らやろが、しょっちゅうしょっちゅう！

週に二度か三度はこんなことをやっていた。不愉快ふゆかいに思いながらミサたちを覚えていた乗客は、あの中にどれくらいいたのだろう。

へこんだ。

名案を思いついたつもりでいたのに、それはずるいことだとこっぴどく叱しかられた。他人から、公衆の面前で。

あの老人が腹すに据えかねて人前でミサを怒鳴りつけるほど二人は今まで目立っていて、それもひどくみっともなく目立っていたのだ。

「絶対、自分が座りたかっただけやで」

マユミはまだふて腐れている。でもふて腐くまれている理由③がわかる。

ミサも同じ理由でふて腐れていたからだ。

ふて腐れたポーズを取っていないと泣いてしまう。他人に怒られて恐かったのと周囲の白い目が恥はずかしかつたのと、他人に叱られるまでその行いを恥はずかしいと思わなかった自分たちのバカさ加減が情けないのと、——制服で学校が分かったら言いつけられるかもしれないという心配も少し。

ミサの名前までは分かるわけがないけれど、例えば朝礼なんかで「このような苦情が当校にありました」なんて発表されたら内心の屈辱くつじやくは想像を絶する。

3

ミサのほうから言った。

4

そう付け加えると、マユミも無言でうなづいた。

それがその時のミサたちの精一杯せいいつぱいの反省だった。別にあたしらが悪いわけちゃうけどジジイがうるさいからもうやめといたるわ。思春期の繊細せんさいさは自分達の落ち度かみを髪かみの毛一筋かみほど認めたがらない。

だが、心の隅すみにわだかまる「C」がその日から乗る車両すまを変えようになつた。

ミサもマユミも、もう荷物で乗り物の席を取っておくようなことはしなくなつた。

そしていつの間にか、そんなことは非常識でみっともないと最初から知っていましたよというような顔をするようになっていった。あの老人に叱られて初めて知ったことだなんてお互いたが口にも出さず。

けれど、そんな顔ができるのはあの老人のおかげだと覚えておくこともお互いが知っていた。

【有川浩『阪急電車』より一部抜粋 ※問題作成の都合上、一部改変】

【語注】

\*1 なじられた：相手を問いつめて責められた。

\*2 ぎょうさんおんのに：おおぜいいるのに。

\*3 喝破：大声でしかりつける。

\*4 難癖をつけてた：ささいな欠点をおおげさに責めていた。

問一 1 4 に当てはまるミサのセリフとして最も適当なものを次のア～エから選び、それぞれ記号で答えよ。

ア またあんなふうに難癖つけられてもイヤやし イ と：友達が、掃除当番で疲れて帰ってくるから

ウ でも、今度からやめとこな エ あ、あの、これは友達のかばんで、友達が後から来るんです





問六 本文の内容として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えよ。

ア おじいさんにいきなりどなられたミサに、同じ電車に乗っていた乗客たちは同情した。

イ マユミのために席を取っていたミサをいきなり叱った老人に、マユミは最初反抗していた。

ウ おじいさんは女子中学生が友達のためにかばんで席を取っている様子を初めて見て、腹を立てた。

エ ミサとマユミが混んだ電車で席を取っていたことについて、学校に苦情が寄せられ、朝礼で叱られた。

オ 知らないおじいさんにいきなり叱りつけられたミサとマユミは、その後もおじいさんをうらみ続けた。

問七 この場面の説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 自分たちの間違った行動に気づかずにはいた少女たちが、事件をきっかけに成長する場面。

イ いきなり怒鳴られるというおそろしい経験をした少女たちが、生き方を変えようとする場面。

ウ 仲が良かったふたりが、知らない大人に叱られるという経験によって心が離れていく場面。

エ ごく一般的な中学生が、現実にはあり得ないような経験をすることで心に傷を負う場面。

問八 次の会話は、この小説の表現の特徴について中学生が話し合ったものである。本文の内容を正しくふまえていない発言をしている人の名前をそのままのかたちで答えよ。

なおこ セリフが多いのは読みやすいですが、方言で書かれているので、少しわかりにくいところもありました。

まさる そうだね、方言がたくさん使われていたのは印象的だね。僕は映画やドラマを見ているような強い印象が残りました。

ひとし セリフは少なく、登場人物一人ひとりの気持ちがいねいに説明されているので、理解が深まりました。

のぶお 電車で叱られた日以降の描写ではセリフがなく、作者がその後の登場人物の変化を説明しているようでした。